

<第3四半期決算 補足説明資料>

平成31年3月期

第3四半期決算概要

平成31年2月7日

 日本タングステン株式会社

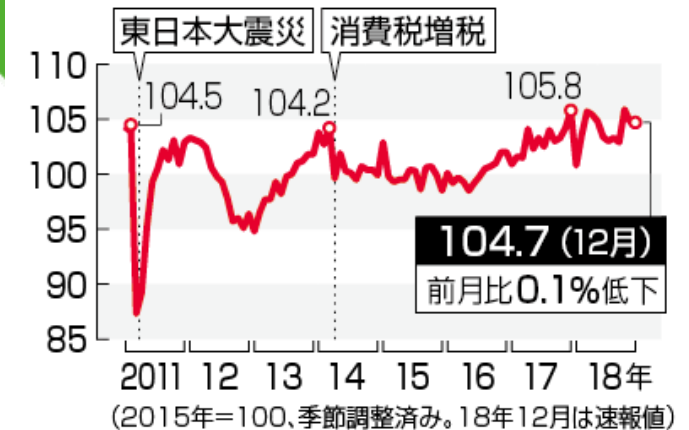
国内

堅調な企業収益を背景に設備投資の増加や雇用情勢の改善等により緩やかな回復基調で推移

海外

米国を中心に堅調に推移するも米中の貿易摩擦による世界経済の下振れリスク増大や中国の景気減速等により先行き不透明な状況が続く

鉱工業生産指数の推移



(出典:時事ドットコム)

■当社グループの業績等

●損益の状況

(単位:百万円)

連結業績	平成30年3月期 第3四半期	平成31年3月期 第3四半期	対前年同四半期比 増減額 (増減率)
売上高	8,223	9,509	1,286 (15.6%)
営業利益	596	908	311 (52.2%)
経常利益	812	1,039	227 (28%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	605	751	145 (24.1%)

《当第3四半期の概況》

機械部品事業、電機部品事業とも好調に推移し、増収増益。主要製品では、衛生用品関連のNTダイカッターが増収となり、自動車関連のEV用接点が好調に推移。

●財務の状況

(単位:百万円)

科目	平成30年 3月期 期末	平成31年 3月期 第3四半期末	前連結会計 年度末比 増減額
総資産	16,118	15,996	△121
負債	6,540	6,017	△522
純資産	9,578	9,979	400

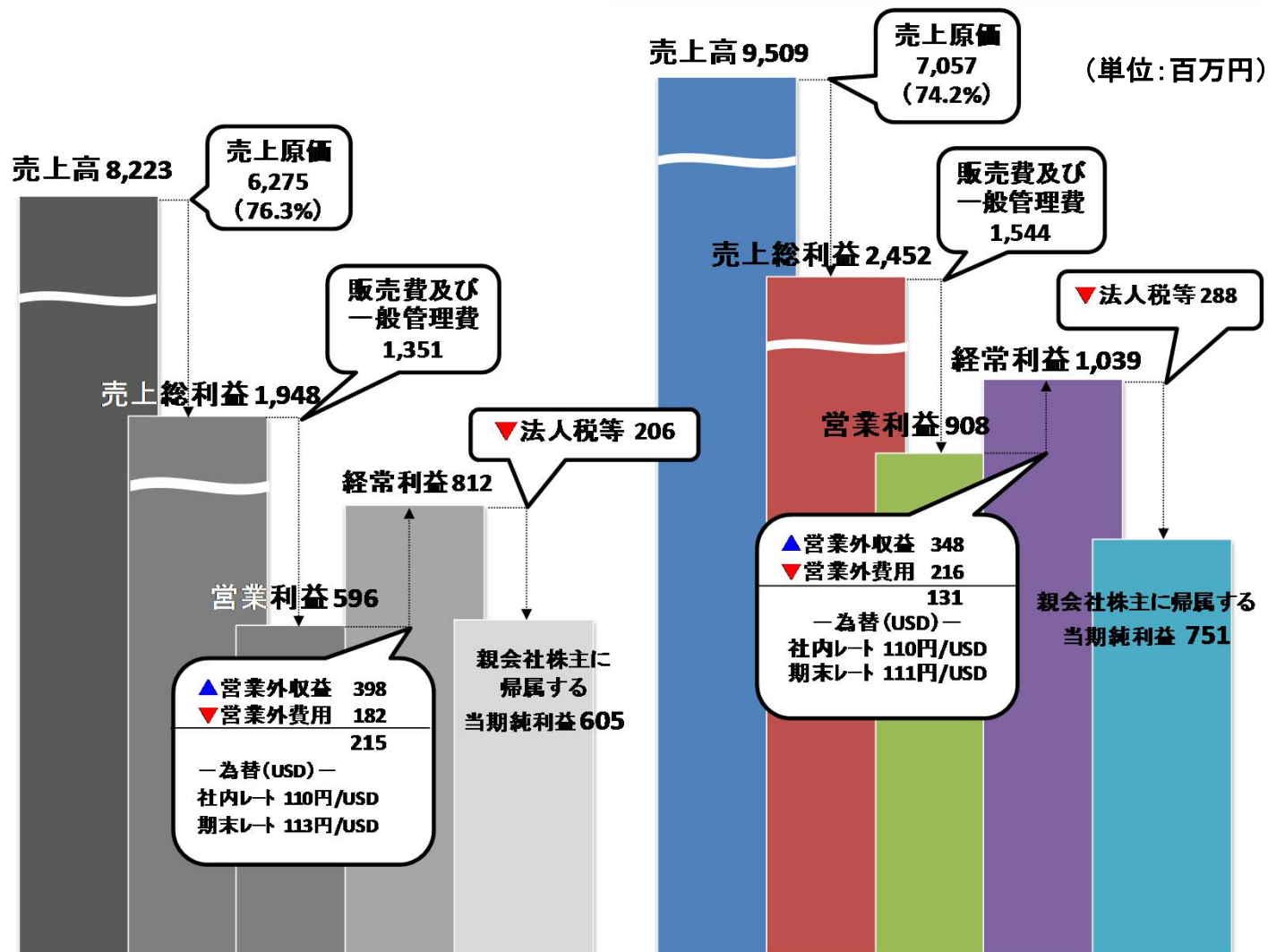
《当第3四半期末の概況》

- ・総資産:前期末比、121百万円減少
(流動資産は減少、固定資産は増加)
- ・負債:前期末比、522百万円減少
(流動負債は減少、固定負債は減少)
- ・純資産:前期末比、400百万円増加

■ 損益の概況(連結)

平成30年3月期第3四半期

平成31年3月期第3四半期



項目	要因
売上総利益	連結各社売上高増加により増益
営業利益	品質・生産性の向上、工程内不具合の削減等コスト対策を継続した結果、増益
経常利益	賃貸不動産の計画修繕や為替の影響等による営業外費用増加により営業外損益が悪化するも、営業利益の増加により増益
親会社株主に帰属する当期純利益	税金費用が増加するも営業利益等の増加により増益

■ 事業部別売上高の状況

平成31年3月期第3四半期 セグメント別売上高

5,498
58% (56%)

機械部品事業

電機部品事業

4,046
42% (44%)

超硬合金
製品



セラミック
製品



3,670
39%
(37%)

売上高
9,556
(内部取引含む)

1,540
16%
(17%)

金属材料
製品



2,505
26%
(27%)

電気・電子
材料製品



1,828
19%
(19%)

単位：百万円

() は前年同四半期の占有比率

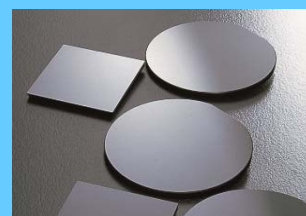
■ 事業部別主要製品の状況

機械部品事業



衛生用品関連のNTダイカッター

- ・当社の生産体制強化やお客様への新商品・新技術などのイノベーション提案が認められたこと、及び国内向けがお客様の設備投資が活発で好調に推移し増収



情報機器関連のハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板

- ・ニアラインストレージ等の大容量HDDの需要が底堅く推移し増収



液晶関連治工具製品

- ・超硬製治工具製品が好調で増収

	平成30年3月期第3四半期	平成31年3月期第3四半期	対前年四半期比
売上高 (百万円)	4,593	5,498	904 (19.7%)
営業利益 (百万円)	704	911	206 (29.3%)

※売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額

■ 事業部別主要製品の状況

電機部品事業



自動車関連のEV用接点製品

- ・EV自動車市場の拡大により海外向けが好調で増収



自動車関連の電極製品

- ・一部製品で需要減となるも、全体として堅調に推移



医療関係のタングステン製品

- ・海外向けが好調に推移

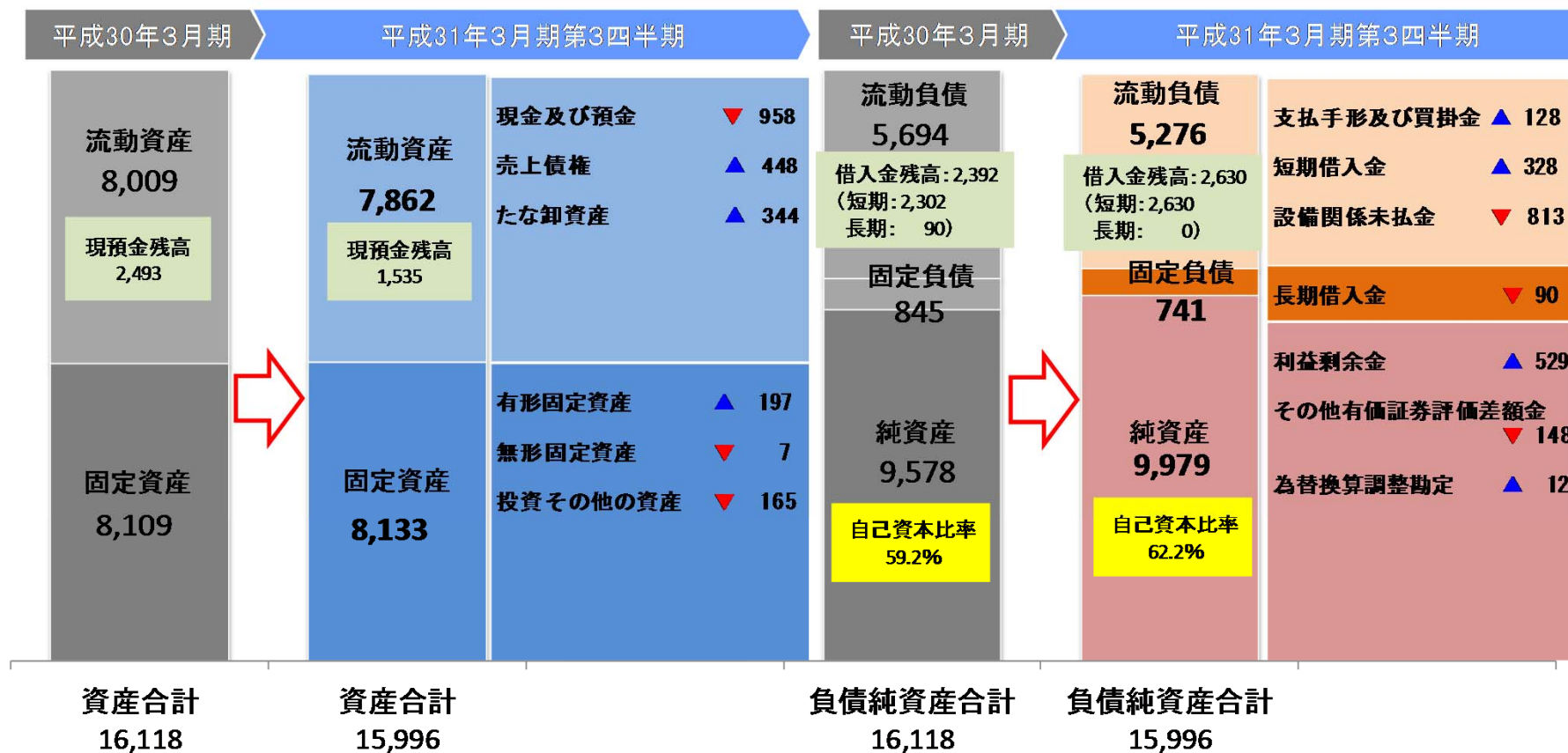
	平成30年3月期第3四半期	平成31年3月期第3四半期	対前年四半期比
売上高 (百万円)	3,653	4,046	392 (10.7%)
営業利益 (百万円)	225	400	174 (77.4%)

※売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額

財務の状況(連結)

(単位:百万円)

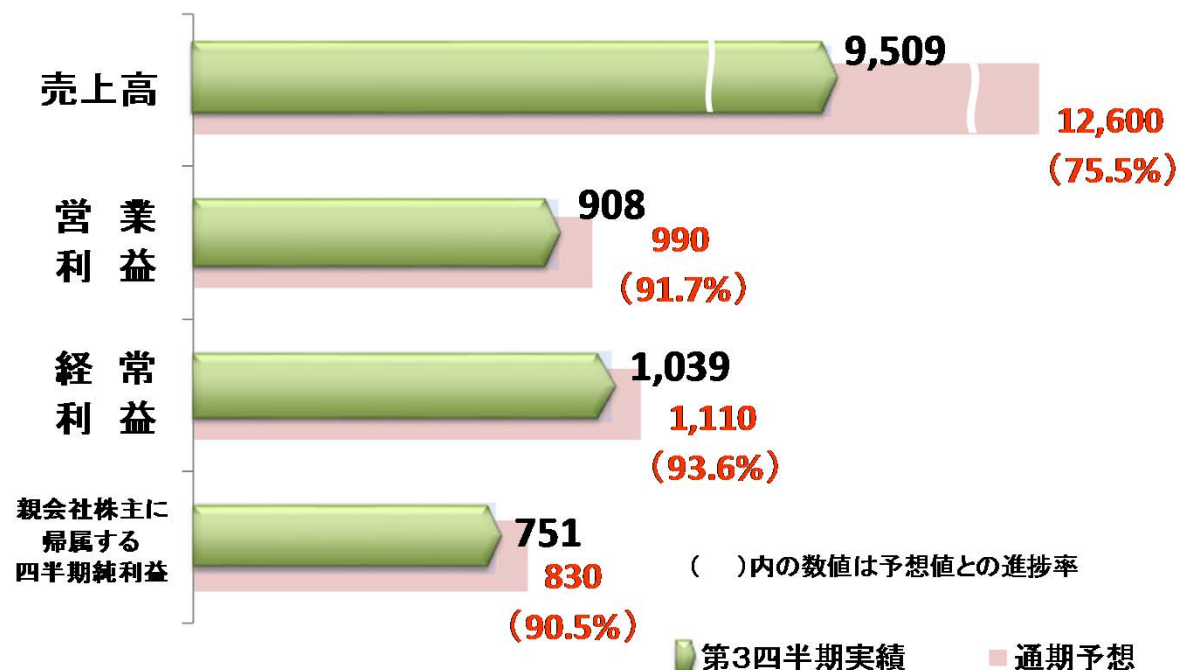
科目	平成30年3月期 期末	平成31年3月期 第3四半期末	前連結会計年度末比 増減額
総資産	16,118	15,996	△121
負債	6,540	6,017	△522
純資産	9,578	9,979	400



■通期の業績予想について

- ・今後の経済環境は、米中貿易摩擦による世界経済の減速リスクの影響等、不透明な状況で推移すると思われる
 - ・通期の業績は、好調に推移しているが、第4四半期の業績については精査中である
- 以上により、平成30年11月8日に公表した**通期の業績予想は据置いた**
なお、今後の業績について修正が必要となった場合には、速やかに開示する

連結業績予想(平成30年11月8日公表)数値と進捗率 (単位:百万円)



■ご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。